

大麦栽培管理情報(第4号)

詳細は平成30年 JA 冬期懇談会資料
62～63ページをご参照ください。

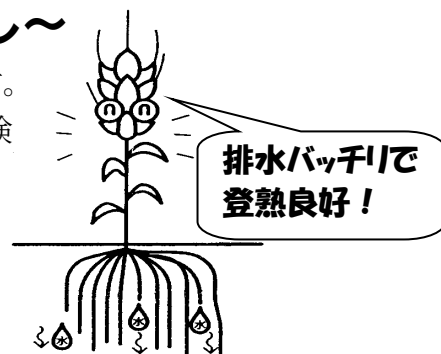
平成30年 3月30日
アルプス農協管内農業技術者協議会

30年産大麦の生育は、茎数が平年より少なく、生育の進みが平年よりやや遅くなっており、出穂期の予想は平坦地で4月6半旬(平年4/22)頃と見込まれます。

1. 排水対策の徹底 ～排水溝、排水口の手直し～

4月に入ると大麦は急激に生育し、根の伸長も盛んになります。湿害を回避するため、排水溝の崩れがないか、圃場ごとに点検しましょう。

- ・雨水が停滞しないよう、排水溝の崩れを手直しするとともに排水口へ確実に連結しましょう。
- ・畝や枕地などに停滞する水を排除するため、補助排水溝を設置しましょう。



2. 止葉展開期追肥 “粒の肥大促進、整粒歩合の向上”

止葉展開期は、平坦地で4月16日頃(10月第3半旬播種の場合)と予測されます。

(1) LP大麦48号(基肥一発肥料)を施用した圃場の場合

→ 追肥の必要はありません。

(2) 分施体系の場合

播種時期や地域により生育に差があるため、圃場ごとに止葉が展開したことを確認し、生育量や葉色に応じて追肥をしましょう。

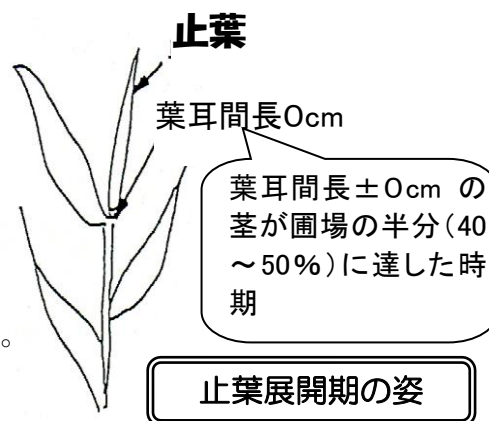
→ 施用時期が遅れたり、施用量が多いと倒伏や硝子粒の発生増加による品質低下につながります。

下記の目安を参考に、適期に施用しましょう。

【追肥量の目安】

葉色(葉色板)※	追肥時の㎡当たり茎数	10a 当たり施用量
5 未満	500本未満	硫安 10 kg
	500本以上	硫安 7 kg
5 以上	500本未満	硫安 5 kg
	500本以上	追肥しない

※葉色板の5は、SPAD502で「45」に相当します。



3. 赤かび病防除の準備

赤かび病の1回目の防除適期は穂揃期です。※防除の期日は、今後の大麦の生育状況を確認して、次号(4/10頃)でお知らせします。

確実に適期防除ができるよう農薬や散布機材を準備しておきましょう。

防除時期 薬剤	1回目	2回目
		穂揃期(開花始め)
粉剤防除体系	トップジンM粉剤 DL 4kg/10a	ワークアップ粉剤 DL 3kg/10a
液剤防除体系	トップジンM水和剤 1,000倍・150ℓ/10a	ワークアップフロアブル 2,000倍・150ℓ/10a

